
遠い昔の思い出

優菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遠い昔の思い出

【Nコード】

N9532B

【作者名】

優菜

【あらすじ】

設定は異世界。ある男の周りで起きる、一族の掟とは…。少しフアンタジーの要素が入っています

プロローグ

* * *

吹き荒れる砂の中
男は一人立っていた。
夢を求め

幻想を描いていたその男は
黄土色一色のこの世界を虚ろな瞳で眺めていた。

「キャラバン…俺の…故郷…。」

砂が舞い、男を誘う。
幻想の世界へと

* * *

過去の記憶（前書き）

昔話になります

過去の記憶

少年が目を覚ますと、辺り一面服やら宝石やら食糧やら、いろいろなもので埋めつくされていた。

体が上下に飛び跳ね、少年の体が中に浮いたり、床に叩きつけられたりと、世話しなく動いている。

少年は一瞬戸惑ったが、直ぐに自分の状況を理解した。

近くにかかっている仕切り替わりの布をめくると、ふっくらとした男性と、その隣に座る長い髪の女性、2人の間にすっぽりと挟まれて笑って座る女の子がいた。
男性は綱を引いていた。

「お父さんっ！！
お母さん！！」

少年が明るく、弾けるような声をかけると、
父と呼ばれただるう男性と、母と呼ばれた女性がゆっくりと少年のいる荷台へと振り向いた。

「おお アラン。
やっとお目覚めかい。」

少年の父が後ろを一目見てから前に向き直し、背中から声をかけた。

「うん。だってさ、振動が凄かったんだもん。
お尻が痛くなっちゃったよ。」

「ふふっ アランったら、お寝坊さんなのが悪いのよ。」

少年の母は優しい笑みを溢しながら息子、アランを注意した。

「はいっ。」

アランも照れ笑いを含んだ、はにかんだ笑顔で返事した。

ここアランたちの今いる場合は砂の王国サランダーと花の帝国ラク
ワスとの国境であった。

どこを見ても赤みを帯びた黄色い砂の一色で埋まっている。

ここら辺の国は他の国の物を手に入れるときに商人たちを通して
いた。

そう、

その商人たちというのが、アランたちの一族のキャラバンだった。
アランたちはラクワスから商品をサランダーへと運んでいる途中な
のだ。

ラクワスとサランダー以外にも、水の都アクサーワと、商人たちの
集う地、マーシアの2つの国を行き来するこの一族は、既に大民族

と化していたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9532b/>

遠い昔の思い出

2010年10月13日04時58分発行